

北海道和種馬の放牧があやめヶ原の植生に及ぼす影響の解明

農林水産省草地試験場立地計画研究科 小路 敦

かつてわが国には、国土の1割を超える半自然草原が存在していたが、高度経済成長期以降の農林水産業をとりまく情勢の変化に伴う放牧・採草の衰退によって、現在では国土の約3%にまで減少しており、半自然草原を生息・生育域とする多くの草原性生物が絶滅の危機に瀕している。一方、厚岸町あやめヶ原は、長年にわたる北海道知種馬の放牧によって創出された半自然草原として、きわめて良好な状態で維持されてきており、他に類を見ない大規模なヒオウギアヤメ群落は、道東地方の重要な景勝地のひとつになっている。ところが近年、ここでも放牧頭数が減少し、雑草の侵入やヒオウギアヤメ群落の衰退が懸念されるようになってきている。

このような現状のもと、あやめヶ原における北海道和種馬の放牧が、土壤環境や群落内の光環境を通じ、草原植物の種組成や群落構造に及ぼしている影響を明らかにし、あやめヶ原の植生管理に活用することを目的として、本研究を行った。